

レセプトオンライン請求義務化撤回訴訟
2次提訴で原告449人に
第1回口頭弁論は今月10日

大阪府歯科保険医協会、大阪府保険医協会の呼びかけにより、歯科医師や医師、患者の権利を



大阪地裁に2次提訴する原告団
＝3日、大阪地裁前

守ろうと全国から集まったレセプトオンライン請求義務化撤回訴訟の2次原告団205人が3日、大阪

地方裁判所に第2次提訴した。1次提訴では244人が提訴しており、原告団は、1次・2次あわせて合計449人にのぼる。原告団の内訳は、大阪の医師211人、歯科医師126人、他府県が16都府県であわせて112人。大阪単独では337人で、都道府県単位では全国で最大規模の原告団になる。

第1回の口頭弁論は、10日の午後1時30分から、大阪地裁で予定されている。協会は今後、世論喚起のため署名や宣伝活動を強めていく。



財務省主計局主査(右)に要請書を提出する小山氏(左)＝6月25日

の不備を批判した。同議員には持参した自主共済の適用除外を求める要請署名407筆を託した。

小山理事は、高い窓口負担によって治療を受けたくても歯科医院に通えない人がたくさんいることなどを訴え、患者負担の引き下げを求めたが、「窓口負担は少なければいいと思うが、それでは医療保険制度を健全に運営することはできない。財源がないのに配分はできない」と、世論とは正反対の見解を示した。

「エコノミークラス症候群」という粹なネーミングも「災害時くるま内居住症候群」と換言すればより嫌だが、もしバイアスピリンなどを常用していたら緊急の際には倍量飲むとか嘔み砕いて飲むのも有効かもしれない。近い将来薬事法がまたまた改正されて処方箋なしで市販される可能性も少なくないようだ。

協会紙もパソコンに響りついて発刊している。気候がいい時くらいカメラを肩に取材にでも出かけたものだ。



新型インフルエンザについて話す高橋氏(左)と、「糖尿病と歯周病」についての総合討議の様相(右)＝6月21日、M&Dホール

交流会は、歯科協会の伊津進弘、医科協会の高本英司各理事長があいさつを述べた後、午前中は「日常診療の臨床と実践」「日常診療の工夫と経営」「医療と福祉の連携」「地域と職種間の連携」の4つの分科会に別れ、全部で23の演題発表と質疑が行われた。

今回は、M&Dホールだけでは収容しきれず、4会場を結んでTV中継しました。参加された皆様方には、実

多数参加、4会場結びTV中継 森 啓日常診療経験交流会副実行委員長 行委員を代表して一言お礼を申し上げます。メインテーマは前回の「食」より一歩踏み込んで、「糖尿病と歯周病の関係」としました。分科会では、日頃の診療をとおしての歯科医師、医師、スタッフの発表と活発な質疑応答が交わされました。急きょ設定したランチ

ンセミナー「今回の新型インフルエンザをどうとらえるか」も好評で、このセミナーが医療安全管理の手助けとなれば幸いです。最後になりましたが、ご協力いただいた方、特に分科会に演題発表していただいた諸先生方、協賛いただいた各種団体、企業の皆様、さらに事務局の皆さんにもお礼申し上げます。

「歯界」 心筋梗塞の手術後や予備軍の動脈硬化でワーファリンとかバ イアスピリン等を服用している歯科患者は多い。年齢にもよるが、抜歯などに際して注意と判断が必要である。そのために休薬するとしても、その適切な期間も考えなければならぬし、だからと言って何でも歯牙保存ができる訳でもない。

「エコノミークラス症候群」という粹なネーミングも「災害時くるま内居住症候群」と換言すればより嫌だが、もしバイアスピリンなどを常用していたら緊急の際には倍量飲むとか嘔み砕いて飲むのも有効かもしれない。

日常診療経験交流会
「真の医科歯科融合」大いに交流
分科会や記念講演など270人参加

協会は、医科協会・協同組合と共同で「真の医科歯科融合を目指して――糖尿病と歯周病の危険な関係」をメインテーマに、第4回日常診療経験交流会を6月21日、M&Dホールと保険医会館で開いた。過去最高の270人が参加し、分科会やランチセミナー、記念講演をとおして、地域医療における医科・歯科連携など積極的に交流した。

福原稔氏)、「睡眠時無呼吸防止器具サイレンサーの作製手順と使用感(東大阪市・西川真二氏)」、「歯科医療と介護保険制度(枚方市・小山

三氏)」、「ビスフォスフォネート系薬剤と顎骨壊死(堺市・山上紘志氏)」、「歯周病と全身疾患(東成区・土井英暉氏)」の6演題が発表さ

ら、第2波でより毒性が高まる危険性を指摘し、厚労省の新指針を示しながら、秋冬に向けての準備の必要性を強調した。(2面に関連記事)

ランチョンセミナー インフルエンザ 第2波への備えを 新型インフルエンザの秋以降の対策準備の必要性が指摘されるなか、日常診療経験交流会実行委員会では、ランチョンセミナー「今回の新型インフルエンザをどうとらえるか」第2波以降の備えとH5N1について」を

企画し、大阪府立公衆衛生研究所副所長の高橋和郎氏に対応方法を説明していただいた。高橋氏は新型インフルエンザについて、その感染経路や個人や事業者が実施すべき感染防止策に

ついて説明。過去のスペイン風邪などの教訓から、第2波でより毒性が高まる危険性を指摘し、厚労省の新指針を示しながら、秋冬に向けての準備の必要性を強調した。(2面に関連記事)

いつでも、どこでも、だれもが、
お金の心配のいらない「保険で
良い歯科医療」の実現を求める
請願署名

みなさんのご協力をお願いします
来年度の予算編成にむけて、①患者負担の軽減②保険でよい歯科医療の実現――などを求める患者署名に取り組んでいます。患者からの声こそが、国会行動での力になります。ぜひご協力ください。
※署名用紙と新パンフ(3面掲載)を6日に発送します。